速野の福祉

＝発行＝
速野学区
社会福祉
協議会

ひと

いつまでも
若く、明るく！

題字は、北川ニュータウン自治会の小出石（おでいし）　光子さん86歳の自筆です。

九州から70歳の時に滋賀県に来ました。何も分からず、寂しい思い一杯でしたが、環境の良い所で、日本一雄大な湖もあり、我が家もそのほとりにありまして、越してきた当初は、毎日のように外出し、心癒されました。

友人に誘われ速野会館でボランティアを3年間楽しくやりました。お陰様で、市から感謝状を頂き、ありがたく思っています。

また、ご縁あって書道教室に入門し、早15年になります。年もとりましたので、「シルバー展だけは！」と歴史博物館に出品をし、ほっとしています。

今は腰が痛くて散歩をするのもつらいです。でも、気持ちは、若さを保つために心も明るくして精神レベルを高く持っていくように心がけ、前進していきたいと思っています。

小学生福祉作文　受賞者の皆さん

☆優秀賞

一年　馬場　星空
二年　井上　さくらこ
三年　山田　琴音
四年　安藤　陽愛
五年　井上　奈々美
　　北川　さくら
六年　大畑　賢斗
　　村井　鈴菜

☆佳作

一年　水本　華
四年　藤本　優花
五年　大井　雄太
六年　今井　久乃

「愛おしむ心」が育まれるとき

速野小学校　校長　大西健之

近年、耳を疑う悲しいニュースが度々報道され、「人の心はどこに行ってしまったのか」という思いを抱いてしまうことがあります。日々の生活に追われて心の疲労を重ねるうちに、大切なものをどこかに置き忘れているのではと考えてしまいます。

しかし、人には、人と関わり・人と生き・人を愛おしむ心が誰にも必ず備わっています。子どもたちの作文には、出会った人との関係をつなぎながら、相手を大切にしようとする清らかな心が溢れています。まっすぐな心で人と出会い、向き合い、自分事として人を捉えようとする心を読みとることができます。また、それらの人とかかわることで、自分自身の存在を認識し、進んで行動しようとする意志へとつながっていることもわかります。子どもの作文からは、人と生き、人とつながる経験を積み上げることがいかに大切かということを改めて学ぶことができます。

21世紀は「心の時代」と言われています。豊かな心が育ち、人を「愛おしむ心」を育むことのできる体験を、子どもの時にできるだけ多く重ねていくことの大切さを感じずにいられません。

小学生福祉作文

おばあちゃんのおてつだい

一年　馬場　星空

わたしが、ようちえんのころ、おばあちゃんが、はまカフェというおとしよりがあつまるカフェをがんばっていました。そこでのわたしのやくめは、ごはんづくりやおばあさんやおじいさんと、いっしょにあそぶことでした。

なにをしていたかというと、いっしょにごはんをたべたり、ぼんおどりをしたり、うたをうたったり、いろいろしました。

おばあさんやおじいさんに、ねんれいや、なんねんかをきかれて

「ようちえんです。」

と、いうのがたいへんでした。

でもたのしかったから、また、ようちえんのころにもどって、いきたいです。

はまカフェのおてつだいをして、おもったことは、わたしもおおきくなったら、おばあちゃんみたいに、いろんなことをして、人のやくにたちたいということです。いまはまだ小さいけど、大きくなったら、いままでよりずっと、人のやくにたちたいです。

そせい苑で学んだこと

六年　村井　鈴菜

私は、そせい苑に行っていろんなことを知りました。そせい苑にはたくさんのおじいさん、おばあさんが、暮らしたり、日がえりで来たりして、過ごされていました。その中で一つ私には今までの考え方がガラッとかわるようなことがありました。それは利用者さんみんなが笑顔で過ごされていたことです。おこっている人は一人もいませんでした。みなさんは、家族ではないけれど、本当の家族のような感じでした。そしてもう一つ、そせい苑で仕事をしている職員さんたちもすごく楽しそうでした。そして、そせい苑の人たちみんなの心があったかく感じました。私は職員の人に、

「一番、この仕事をしていて良かったな。と思う時はどんな時ですか。」

と質問すると、

「利用者のみなさんが笑ったり、ありがとうといって下さったりする時です。」

と答えて下さいました。

私はこのことから、一人ひとりにあった接し方を職員さんがすることによって、利用者さんと心がつながったり、笑顔で、まるで家族のように見えたんだなと思いました。利用者さんもたくさんいろんな人と笑うことが、一番の元気の源になっているようでした。

私はこのきちょうな体験をして、一人ひとり、いろんなことがあるけれど、接し方だけでみんな笑顔になれるということが分かりました。私もこの体験で学んだことを次に生かして、一人ひとりの接し方を考えたいとおもいました。

★ 各部会の活動 ★

◎地域福祉部会

2/19（金）在宅介護者のつどい

たくさんの方が参加してくださり、保健師に相談もしてくださいました。

◎福祉協力員連絡会

1/27（木）館外研修　草津志津南地区社会福祉協議会『ふれあいハウス”絆”』の活動について、研修させていただきました。

◎総務部会 2/29（月）館外研修米原市

大野木長寿村まちづくり会社を視察。**「大野木人による、大野木人のためのまちづくり」**が推進され、送迎サービス（買い物や通院）・生活見守り・清掃・ゴミ出し・庭木の手入れ・草刈りなどの支援が１時間600 円（30 分未満は無料）で行われ、村民の生きがいや村民同士が支え合う仕組みづくりが実践されていました。

◎広報部会 2/24（水）館外研修（読売新聞大津支局）

読売新聞大阪本社広報宣伝部次長 黒須さんより見出しの付け方、写真掲載の仕方、分かりやすい紙面の構成等、詳しく教えていただきました。

今後も内容の濃いものになるように、読者の皆様から率直なご意見等を頂けると幸いです。

モニターになっていただける方は速野会館電話（077-585-3953）（織田）まで、ご連絡下さい。

◎ボランティア部会

１/26（火）子育て研修会

ひなぎくこども園堀江ひとみ園長をお招きし、**「乳幼児期に大切なこと」**と題して講話をいただきました。

2/5（金）ボランティアのつどい そば打ち体験

「水保そば倶楽部」の皆さんに指導していただき、美味しいそばをつくることができました。

～認知症になっても安心して暮らすことができるまちづくり～

「ビーコン」ってご存じですか？

市では、速野学区の皆様と共に、行方不明高齢者等の早期発見・保護に役立つビーコン（高齢者が携帯する端末）の実証実験に取り組みました。

ビーコン

端末は 500 円
硬貨大

その実証実験とは、速野学区の皆様にビーコンの電波に反応するアプリのダウンロードをお願いし、もしビーコンを携帯している高齢者が近くを通ったときには「見守りボランティア」としてご参画いただくことで、認知症による行方不明高齢者の位置情報を把握するというものです。

速野学区の皆さまを中心に市内 800 件のダウンロードのご協力をいただきました。

市では、この実証実験の結果を踏まえ、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくりの推進に努めてまいります。

（＊実証実験は、平成２８年３月末に終了予定です。）

問い合わせ先
電話　077-581-0330　FAX　077-581-0203
地域包括センター　辻　美幸

＊大昭会様より速野学区社協善意銀行にご寄付をいただきました。
ありがとう　ございました　(^_^)

地域で見かけた ホットな光景（大曲）

★大人も真剣！大人が真剣！

子どもには負けられません！★

大曲でずっと続けて行っている子ども文庫の貸し出しの後、お楽しみのかるた大会の一場面です。その後、みんなで手作りのおやつをいただきました。

編集後記

今年度は、研修を２回行い、カラー印刷になった誌面をもっと読みやすく、初めて読んで頂ける方にも分かりやすく、更にタイムリーになるよう、広報部員14名で意見を出し合い制作してきました。

原稿の依頼・取材を快くお引き受け下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

来年度も、笑顔いっぱいの「速野の福祉」にしていきたいです。ご協力よろしくお願いいたします。